

アトピー性皮膚炎に対する漢方治療のエビデンス

Evidence for the efficacy of 'Diet and Kampo' for atopic dermatitis

小林 裕美

大阪市立大学大学院医学研究科皮膚病態学 助教授



Atopic dermatitis (AD) is a complex, multifactorial disease for which definite guidelines of treatment have yet to be established. Substantial portion of AD patients treated with conventional therapy become intractable after cycles of recurrences. We have treated many of those patients by diet and Kampo herbal medicine. However, as our approach is highly individualized and the Kampo formulae sometimes complicated, it is not easy to provide evidence to establish usefulness of this approach. To demonstrate the effectiveness of the method of individualized Kampo therapy, results are presented for a series of patients who had failed conventional therapy but were treated afterwards by utilizing diet and Kampo. Based on these data, we contend that there exist a definite subgroup of AD patients whom conventional therapy fails, but 'Diet and Kampo' approach succeeds, to heal (Kobayashi H et al: eCAM 2004; 1(1): 49-62).

アトピー性皮膚炎 (AD)は多病因的疾患で、通常の治療にても難治の一群が存在する。このような例に私達は、食養などの生活習慣指導と漢方方剤内服を利用し治療効果を高めてきた。方剤の選択は、病態を重視し、症例毎に、また、同一症例においても時間経過とともに変更していく。従って、AD治療に用いる方剤は複数あり、従来 EBM のランクが高いとされてきた方法では正しい評価は困難である。

このような特徴を有する漢方の評価法としては、N-of-1 試験を応用した方法が考えられる。これは 1 症例を対象に、漢方投与期間と偽薬投与期間をランダムに割り付け、その効果を判定するものであるが、偽薬作成の困難が問題点として存在する。

診療現場においては、ある薬剤が有用か否か、投与中と非投与時、あるいは別の方剤投与時の変化を比較することにより、最適の薬剤を決定しており、偽薬のない一種の N-of-1 試験を行なっていることになる。このような症例の集積による漢方の有用性の評価を試みた。方法としては、標準的治療をまず行ない、治癒しない例を対象に、漢方の食事指導、すなわちバランスのとれた和食中心の食事推奨を行なう。それでもなお治癒しない例に漢方方剤内服を加える。という形で、標準治療以外の方法が必要な群を明らかにし、その群における効果を、6か月以上の経過を重視して評価した。この方法においては容易に治癒しやすい軽症例は全て除去される。さらに脱落例の来院中断理由も調査し、副作用の有無を記録し、本療法の長所短所を明らかにした。

また、一方剤についての検討例として、生体防御能を高める補中益気湯を対象に、それまでの治療による経過観察期間を設けたのち、本剤のみを加え、検査値の変動、外用剤の量の変化など種々の角度から本剤の効果を明らかにした。

いずれも、不必要な投薬のリスクを軽減できる倫理的な方法であり、今後も検討を重ねていきたいと考えている。